

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2023年度 助成者)

作成日 2023年 9月 7日

氏名 (フリガナ)	清水さとみ (シミズサトミ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2023年8月14日 (月) ~ 8月19日 (土)
大学名	慶應義塾大学
学年	5年
<p>この度、私は Hawaii Tokai International College 主催の医学部夏季集中医学英語研修プログラムに参加させていただきました。私は将来アメリカで臨床医として働くことを目指しており、来年の春にはアメリカで短期臨床留学を予定しています。そのために医学英語の実践的なスキルが不可欠であると感じ、ハワイ医学部夏期集中英語研修プログラムへの参加を志望いたしました。本プログラムでの5日間は病院実習において最も重要な History taking と Case presentation の実践的な練習経験を積むことができ、またハワイで働く医師の方々や志を同じくする医学生とのつながりを築くこともでき、大変有意義な5日間でした。</p> <p>PBL(Problem based learning)式の授業は私自身あまり慣れていなかったのが最初は自分の医学知識の不足を感じ焦りました。症状から鑑別を複数考え、そして診断に至るまでに必要な問診内容や必要な検査、予想される所見など徹底的に質問されました。今まではキーワードから診断を絞り込む単純な方法しか使っていなかったため、PBL では領域横断的な知識やより実際の臨床で役立つ知識を多く学ぶことができました。午前中は先生が用意してくださった症例に基づいて生徒同士で history taking をし、その後 case presentation を先生の前で行いました。午後は JABSOM の生徒に実際に患者役となってもらい、history taking を行った後、先生に対して1対1で発表しフィードバックを受けました。優先して言うべき症状や鑑別疾患として他に何があげられるかなど、具体的なアドバイスをくださり非常に貴重な機会でした。5日間のうちにこの case presentation を8回ほど行ったと思います。最初は配布された資料を見ながら文法などを考える余裕もなく拙い presentation をしていたと思いますが、何度もこなすうちに徐々に慣れてきました。初日に小林先生からアメリカにおける case presentation の重要性について伺っていたので、自分なりの型を身につけることができたのは本当によかったです。来年の春にアメリカの大学で一ヶ月の短期臨床留学を予定しているため、今回学んだ知識を最大限生かしていきたいと思います。</p> <p>授業以外の時間ではアラモアナセンター内のクリニックを訪問したり、実際にハワイで働く先生方から貴重なお話を聞く機会もありました。以前は海外で医師として働くことを漠然と考えていましたが、先生方との交流を通じて自分の夢がより具体的なものとなりました。先生方からは、海外で医師として働くことがどれだけ過酷なのかについても学びましたが、先生方が質問に真摯に答えてくれたことから、「諦めず挑戦してみたい、挑戦しなければ何も始まらない」という気持ちになりました。また、志を同じくする学生と出会いこの1週間で深い友情を築けたことも良かったです。アメリカでの医師としてのキャリアを真剣に考え、積極的に様々な先生と連絡を取る学生や、既に USMLE STEP1 を取得した学生など、自分よりもレベルの高い学生との交流は非常に刺激的でした。また、お互いの夢や留学経験について話し合うことで、アメリカでの医師としてのキャリアに向けて仲間ができたことは非常に嬉しかったです。</p> <p>最後になりますが、医学部夏季集中医学英語研修プログラムの開催にあたってご尽力いただいた Hawaii Tokai International College・日米医学医療交流財団の皆様、ご指導・ご講義いただいた先生方、JABSOM の学生さんに心より感謝申し上げます。</p>	